

教科名	国語	科目名	国語a	履修学年	中学 高校	3年	A～E 組	
単位数	2単位	使用教科書 補助教材等	国語3（光村図書）					
担当者	小林 絹 二神 颯		光村の国語のワーク3（光村教育図書）					
学習目標	物語や論説文を読むことにより、社会生活で役に立つ国語の力を身に着ける。多様化する社会に必要な、論理的思考力を身に着ける。文章によって、自分の意見を他者に伝えられる表現力を身に着ける。							
評価方法								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けるとともに、情報の取り扱い方や関係性に着目し、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との多様な関わりの中で適切な表現を用いながら伝え合い、自分の思いや考えをより広げたり深めたりしている。		各単元における知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりするとともに適切に活用するために、自らの学習状況を把握し、既習の内容を生かしながら課題や活動に取り組むとともに、積極的に学習しようとしている。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査 基礎問題 ノート・ワーク		定期考査 応用問題 提出課題 創作（作文など）		授業態度 ノート・課題の提出状況			
学期末の 各観点比率(%)	50		30		20			
授業計画								
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等				時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	・ 握手 井上ひさし ・ 人工知能との未来 羽生善治				10	1 学期 中間 考査	第1回 到達 度 確 認 テ ス ト
	5							
	6	・ 作られた「物語」を超えて 山極寿一 ・ わたしを束ねないで 新川和江				10	1 学期 期 末 考 査	
	7							
	8							
2	9	・ 人間と人工知能と創造性 松原仁 ・ 俳句の可能性 宇多喜代子 ・ 俳句を味わう				9	2 学期 中 間 考 査	
	10							
	11	・ 故郷 魯迅				10	2 学期 期 末 考 査	
	12							
3	1	・ 誰かの代わりに 鷺田清一 ・ 温かいスープ 今道友信				10	学 年 末 考 査	
	2							
	3							

教科名	国語	科目名	国語b	履修学年	中学・高校	3年	B 組		
単位数	2 単位	使用教科書 補助教材等	国語3 (光村図書) / 光村の国語のワーク3 (光村教育図書) / 古典文法基礎ドリル (河合出版)						
担当者	竹内		読んで見て覚える重要古文単語315 (桐原書店) / 中学書写一・二・三年 (光村図書) 教員作成プリント						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き文語文法の基礎を習得し、古文の基礎的・発展的読解力の育成に結びつけられるようにする。 基本的な古文単語の意味を覚え、基礎的・発展的読解に役立てられるようにする。 漢文訓読の基礎を徹底したうえで再読文字の習得も行い、漢文の基礎的・発展的読解力の育成に結びつけられるようにする。 書写においては、昨年度に引き続き行書を扱い、2年次よりも質を向上させる。 								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	古典読解に必要な言葉の知識や技能を身に付けるとともに、情報の取り扱い方や関係性に着目し、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。		古典読解を通じ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との多様な関わりの中で適切な表現を用いながら伝え合い、自分の思いや考えをより広げたり深めたりしている。		各単元における知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習に対する態度や現状を正確に理解し、積極的に課題や活動に取り組もうとしている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査、小テスト		定期考査・小テスト		音読、グループ学習、授業態度、課題提出				
学期末の 各観点比率(%)	60%		30%		10%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	古典文法…用言の活用の復習 古文…万葉集・古今和歌集・新古今和歌集(和歌の技法) 古文…奥の細道(冒頭文)					2 6	1 学期 中間 考査	第1回 到達 度確 認テ スト
	5	小テスト							
	6	古文…沙石集(児の飴食ひたること) 漢文…漢詩(正岡子規「送夏目漱石之伊予」): 漢詩の復習・律詩の形式 小テスト					2 6	1 学期 期末 考査	
	7	(答案返戻)・書写…行書(全国書画展覧会に向けて)					2		
2	9	書写…行書(全国書画展覧会に向けて) 漢文訓読…復習(返り点・書き下し文)・再読文字① 漢文…晋書(蜚雪の功) 漢文…戦国策(蛇足)					1 3 6	2 学期 中間 考査	第2回 到達 度確 認テ スト
	10	小テスト							
	11	古文…徒然草(これも仁和寺の法師) 小テスト					10	2 学期 期末 考査	
	12	(答案返戻)・古典の基礎総復習					2		
3	1	古文…竹取物語(竹取の翁、竹を取るに…) 漢文訓読…再読文字②					5 1 4	学 年 末 考 査	
	2	漢文…世説新語(漱石枕流) 小テスト							
	3	(答案返戻)							

教科名	国語	科目名	国語b	履修学年	中学・高校	3年	A・C～E	組	
単位数	2単位	使用教科書 補助教材等	国語3(光村図書)/光村の国語のワーク3(光村教育図書)/古典文法基礎ドリル(河合出版)						
担当者	山本 竹内		読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)/中学書写一・二・三年(光村図書) 教員作成プリント						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き文語文法の基礎を習得し、古文の基礎的読解力の育成に結びつけられるようにする。 基本的な古文単語の意味を覚え、基礎的読解に役立てられるようにする。 漢文訓読の基礎を徹底したうえで再読文字の習得も行い、漢文の基礎的読解力の育成に結びつけられるようにする。 書写においては、昨年度に引き続き行書を扱い、2年次よりも質を向上させる。 								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	古典読解に必要な言葉の知識や技能を身に付けるとともに、情報の取り扱い方や関係性に着目し、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。		古典読解を通じ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との多様な関わりの中で適切な表現を用いながら伝え合い、自分の思いや考えをより広げたり深めたりしている。			各単元における知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習に対する態度や現状を正確に理解し、積極的に課題や活動に取り組もうとしている。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査、小テスト		定期考査・小テスト			音読、グループ学習、授業態度、課題提出			
学期末の 各観点比率(%)	60%		30%			10%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	古典文法…用言の活用の復習 古文…万葉集・古今和歌集・新古今和歌集(和歌の技法) 古文…奥の細道(冒頭文)					2 6	1 学期 中間 考査	第1回 到達 度確 認テ スト
	5	小テスト							
	6	古文…沙石集(児の飴食ひたること) 漢文…漢詩(正岡子規「送夏目漱石之伊予」):漢詩の復習・律詩の形式 小テスト					2 6	1 学期 期末 考査	
	7	(答案返戻)・書写…行書(全国書画展覧会に向けて)							
8									
2	9	書写…行書(全国書画展覧会に向けて) 漢文訓読…復習(返り点・書き下し文)・再読文字① 漢文…晋書(蜚雪の功) 漢文…戦国策(蛇足)					1 3 6	2 学期 中間 考査	第2回 到達 度確 認テ スト
	10	小テスト							
	11	古文…徒然草(これも仁和寺の法師) 小テスト					10	2 学期 期末 考査	
	12	(答案返戻)・古典の基礎総復習							
3	1	古文…竹取物語(竹取の翁、竹を取るに…) 漢文訓読…再読文字②					5 1 4	学 年 末 考 査	
	2	漢文…世説新語(漱石枕流) 小テスト							
	3	(答案返戻)							

教科名	国語	科目名	国語c	履修学年	中学・高校	3年	全	組	
単位数	1単位	使用教科書 補助教材等	ロジカル国語表現Ⅲ(好学出版) 教員作成プリント						
担当者	小林 絹								
学習目標	「書く」「読む」「味わう」を各授業のテーマとして据え、文章を読み書きする手法を実践的に活用することができるよう、繰り返し練習する。また、コミュニケーション・自己表現のツールとして「ことば」を適切に使用できるようにするため、実用的な文章の読み取りや複数の資料や統計資料の読み取りも併せて行う。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けるとともに、情報の取り扱い方や関係性に着目し、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との多様な関わりの中で適切な表現を用いながら伝え合い、自分の思いや考えをより広げたり深めたりしている。			各単元における知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするとともに適切に活用するために、自らの学習状況を把握し、既習の内容を生かしながら課題や活動に取り組むとともに、積極的に学習しようとしている。			
各観点の授業内 評価方法等	授業内課題 定期考査		授業内課題 定期考査			授業内課題 授業態度			
学期末の 各観点比率(%)	40%		40%			20%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	書くことの復習 書く「相手に伝わる文章を書く」					5	中間 考査	
	5	論理のしくみ①「接続語の働き」 論理の利用①「説得力のある文章を書く」 論理の利用②「論理的な構成で書く」							
	6	論理の実践準備「原稿用紙の使い方」 論理の実践①「テーマについて、根拠・具体例を挙げて書く」 論理の実践②「対比して立場を選び、反論を想定して書く」					5	期末 考査	
	7	税の作文など、他者の評価を意識して作文する							
8	学期まとめ課題								
2	9	テーマ型作文 文章読解型作文 論理の実践③「資料の種類を知る」					5	中間 考査	
	10	論理の実践④「資料を比較・考察する」 論理の実践⑤「資料を読み取って書く」 論理の実践⑥「資料を読み取って意見を書く」							
	11	論理の実践⑦「複数の資料と体験を踏まえて意見を書く」 論理の実践⑧「複数の資料と反論を踏まえて意見を書く」 学期まとめ課題					5	期末 考査	
12									
3	1	論理や意見を発表する①「ディベート」 論理や意見を発表する②「卒業研究原稿作成」					5	学年 末考査	
	2								
	3								